

## ■ 白鳥川ってどんな川？



東近江市から近江八幡市にかけて琵琶湖まで流れる 1 級河川。従来はあまり手入れされず、堤防沿いや右岸の自転車道兼遊歩道は葛のツルや雑草が伸び放題でした。現在は、通学や散歩道として多くの人に利用されるようになりました。

## ■ 日々の清掃活動で守られています

### - 景観隊の発足 -

白鳥川を「後世に残る『桜並木の新名所』として育て、散策・憩いの場として利用してもらいたい」という思いから発足しました。

- 発足 2006 年 2 月
- 活動場所 JR から琵琶湖までの 5km
- 活動人数 55 人（平均年齢 74 歳）
- 活動日 毎月第 1・3 水曜日、毎週土曜日  
ともに午前 9 時～正午

### - 定例の活動は草刈りやゴミ拾い -

雑草の中には、トゲを持つ植物もあるため分厚い手袋が必須です。



空き缶や食べ物の袋など、ポイ捨てされたゴミ

ゴミが捨ててあると、機械に巻き込まれ、機械の故障やけがにつながることも…



### - 苦あれば楽あり -



景観隊名誉会長・吉田栄治さん

川床や堤防はコンクリート製ではありません。そこが白鳥川の良いところですが、維持管理は大変です。

美しい景観を守ることで、皆さんと交流でき、喜んでいただけています。自分たちにできることを、少しずつ続けていきます。

## 特集

# 白鳥川は 老日にして成らず

春になると、満開の桜道と手作りのぼんぼりを楽しむことができる「白鳥川」。この風景を楽しむことができるようにと、川を守ってくれているのが「白鳥川の景観を良くする会(略称・景観隊)」です。景観隊の平均年齢は74歳。皆さん、仕事を退職して、第二の人生を歩んでいます。今回の特集では、そんな退職後に活躍する景観隊の皆さんの活動内容や、活動への思いを紹介します。



# 退職した今だからできること

## - 新たな生きがいを見つけるために -

### ■ 時間ができたから、動く

もともとは、精密機器の設計をする仕事に携わっていました。60歳を迎え退職を機に何かしたいと思い、退職後の男性が集まる「男の居場所教室」に応募し、多くの仲間ができました。景観隊のほかにも、びわ湖1周や街道を歩く団体に参加したりゴルフをしたりと、今もいろいろな活動を続けています。

### ■ 理由を探すと嫌になる

何かを始めたり、継続したりする際に「何のために」・「誰のために」を考えると嫌になってしまうので、「目の前の知りたいこと」に積極的ににかかわるようにしています。

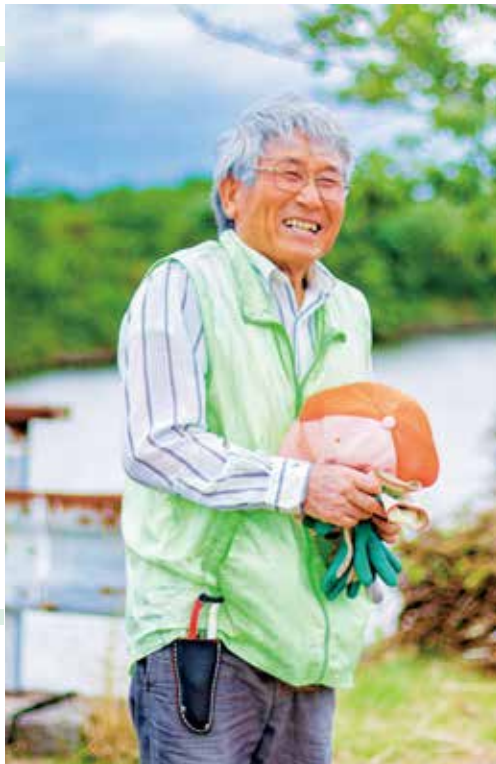
## - 何か作りたくて始めた「つまようじアート」-

### ■ 最初は簡単なものを

現役時代は設計の仕事をしていたため、自分の手で「何かを作り」たくなり、2010年に始めました。「つまようじ」と「木工用ボンド」のみで作れるため、いつでもやめられると思い続けていると、気が付けば13年目、作品は10作目になりました。最初は凝ったものを作らず、気軽に家くらいから作ると長続きすると思います。私も1作目は自分の家の模型を作りました。少しずつコツコツとした作業が必要なので、自分を律することにもつながっています。

### ■ 他の誰よりも忠実に

趣味だからこそ、自分の中にこだわりを持って作品を制作しています。1つ目は、「設計」にこだわること。想像や写真で作ると妥協することが多くなるため、国立国会図書館で実物の図面を手に入れ、完成までの時間・行程を正確に計算するようにしています。2つ目は、「色をぬらない」こと。つまようじだからこそその表現をするため、色の濃淡は並べる向きや長さなどで表現しています。3つ目は、細部までこだわること。屋根や窓枠などの端は、つまようじの先を45°に削りぴたりと合わせるようにしたり、平らな面積を増やすため、縦に半分に削ったりしています。



景観隊代表・佐藤成宣さん



つまようじアートを作る手順

1作目に作った家の模型

2.5万本を使った1/50の松本城

つまようじを削る治具

## - 1歩外に出ると、仲間ができる -

退職してから、なかなか動けずにいる人も多いと思います。1歩外に出て誰かと話してみると、明日への活力にもなりますので、ぜひ趣味やグループ活動を始めて、仲間を作ってみてください。

景観隊の活動に関心がある人はご連絡ください。気軽に一度参加いただければうれしいです。

申・問 白鳥川の景観を良くする会 事務局 ☎ (37)5146 ✉ shige202307@gmail.com

# ～ 景観隊が彩る白鳥川～

## 桜を照らす「ぼんぼり」の設置



### きっかけ

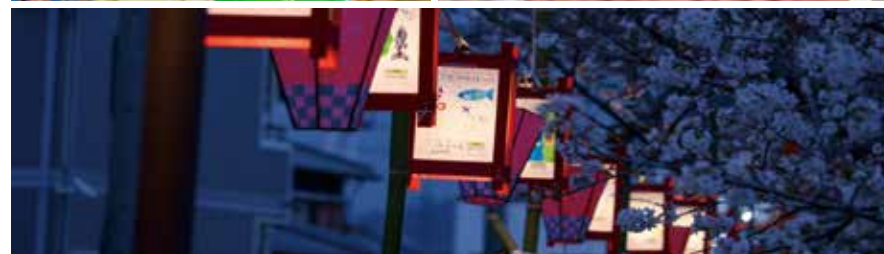
東日本大震災で暗くなりがちな人々の気持ちを少しでも明るくするようにと、2011年の春に開始しました。

### 最初は…

景観隊が作った手作りのぼんぼり50数基を設置しました。

### 現在の様子

ぼんぼりは300基以上に。その側面には、小学校の児童や白鳥町・小舟木エコ村の子ども会など600人以上の子どもたちにより、河川美化や将来の夢などのメッセージと絵が描かれています。



## 鯉のぼり川渡し

### きっかけ

地域の親子が川沿いの散歩を楽しみ、総合医療センターの入院患者の心の癒しになってもらおうと、2012年に開始しました。

### 最初は…

景観隊が持ち寄った鯉のぼり約30匹が掲げられました。

### 現在の様子

鯉のぼりの寄付を集めると、毎年のように申し出があり、現在は130匹以上に。鯉のぼりが絡まないよう、毎年改良・工夫をしています。



## 桐原東小学校5年生と環境体験学習



### きっかけ

白鳥川沿岸の除草作業などにより河川環境が改善したことから、子どもたちも自然を見て・触れることができるようにと2010年に開始しました。

### 学習内容

川に入り、たも網を使ってザリガニやスジエビ、ヨシノボリ、ドンコなどを捕り、生き物を観察します。あわせて、薬品を使用した水質検査や、透視度計を用いての水の透視度テスト、白鳥川の川べりに生息する植物の観察なども。